

中 日 新聞 原爆 35 (第3種郵便物認可)

# 米の変化 小さな希望

## 被爆者、過去に思いはせ式典の日

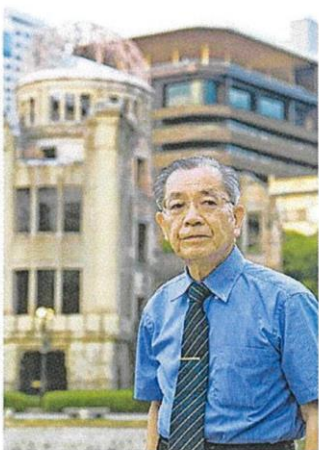
米国のオバマ大統領が五月に現職の米大統領として初めて訪問してから、被爆地・広島は六月、初めての「原爆の日」を迎えた。オバマ氏に原爆投下への謝罪を積極的に求めなかった被爆者たちは、原爆投下の是非をめぐって議論が交わることになった。日本の「過去」に思いをはせながら、米側のわずかな変化の兆しに「未来」への希望を抱く。

(社会部・安福晋一郎) 〇面参照

広島平和記念資料館(原爆資料館)の元館長、原田浩さん(左)。広島市安佐南区には一九五五年、当時の広島駅ホームで列車を待つ米スミソニアン航空宇宙博物館でついでに被爆し、火の手から逃げ延びた。米国内、原爆が落ちた広島の実地を自ら見てほしいと思

館長在任中の当時、原爆投下五十年に合わせてスミソニアン博物館長の熱心な依頼を受け、日本側だが、原爆資料館を見たのはわずかで対応に当たった。だが直前になって「原爆投下は正しかった」とする米退役軍人種族差別に遭い、展示は中止に追い込まれた。「原爆投下は米国の歴史だ」とあきれ返りました。とても正面から対応でき、その米大統領に謝罪を求めると

### 元原爆資料館長「これが始まり」



「米国は今もきのこ雲の「下」を見ていない」と話す原爆資料館元館長の原田浩さん。広島市中区の平和記念公園で

六日の平和記念式典で安倍晋三首相と松井一実・広島市長は、世間から核兵器廃絶するための決意や行動計画は示さなかった。原田さんはオバマ氏の訪問実現で満足してしまっているようだ。日本や広島市として今後、どう行動していくのか。その具体策がないと批判する。

それでも、変化の兆候を感じて

「スミソニアン航空宇宙博物館の原爆資料展示 戦後50年記念として1995年に企画された。広島に原爆投下したB29爆撃機「エンラ・ゲイ」と広島、長崎の惨状を伝える予定だったが、米退役軍人の団体と米議会がスミソニアン博物館長の辞任を推進した。原爆投下の正当性をめぐる大論争に発展。博物館側は、日本側資料の展示部分を「歴史博物館」で展示された。

「原爆投下の命令を下した二月、原爆投下時の米大統領だったトルーマン氏の発言に対する抗議声明を決議した。当時、議員の一人だった吉田治平さん(左)は「原爆投下は正しくないと」と思っていた。これは絶対に許せんかった」と振り返る。



1998年に広島市議会が決議したトルーマン前大統領への抗議書

### 58年に抗議決議 元広島市議「廃絶は遠いが」

トルーマン氏は、テレビで「良心のたがめを感じなかった」と発言。市議会は抗議文で「広島市民とその犠牲者を冒瀆するも甚だし」と糾弾した。

声明に対し「無条件降伏を求めるポツダム宣言を日本がすぐに受け入れなかった」とする書簡を出して批判。抗議の応酬が続いた。吉田さんは「それまでは敵意があっても慎んでこたえた。どの議員も家族を亡くした。悔しくて悔しくて」と振り返る。

五十八年を経て米大統領が広島を訪問した。吉田さんは「すいぶんと空気が緩んだ」と感じているが、やはり譲れない思いがある。「原爆を、人道に対する過ちと認めなければならぬ。七十年目の「原爆の日」は、自虐で静かに過ごした。「核廃絶への道のりは、まだ遠い」